

第14回大阪府自殺対策審議会 議事概要

日時：令和5年12月22日（金）14時～16時

場所：大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）大会議室3

出席者：委員17名

《来場》川野委員、中森委員、嵯峨委員、角崎委員、阪本委員、横溝委員、上田委員、日茂委員
北條委員、李委員、東委員、喜多村委員、中西委員

《WEB》都村委員、岩谷委員、澤委員、稲田委員

■議事

- (1) 大阪府の自殺の状況について
- (2) 大阪府自殺対策計画について
- (3) 令和5年度大阪府の自殺対策について
- (4) 新型コロナウイルス感染症に関連した取組みについて

■議事結果

- 会長選出 川野委員を会長に選出
- 大阪府の自殺の状況について、大阪府自殺対策計画における取組み状況等について報告を行い、若年層に向けた取組等について審議を行った。

■議事概要

- (1) 大阪府の自殺の状況について【資料1-1～4】
 - ・令和4年の大阪府の自殺の概要について
 - ・大阪府の自殺の状況（平成30年～令和4年）
 - ・大阪府の月別自殺者数（令和5年の暫定値）
 - ・若年層の自殺者の状況（平成30年～令和4年）
- (2) 大阪府自殺対策計画について【資料2-1～4】
 - ・大阪府自殺対策計画の概要
 - ・大阪府自殺対策基本指針における取組み
 - ・大阪府自殺対策計画進捗管理表
 - ・大阪府自殺対策計画プログレスシート
- (3) 令和5年度大阪府の自殺対策について【資料3-1～5】
 - ・令和5年度の大阪府の自殺対策事業の概要
 - ・こころの健康について考えよう！（SOS出し方教育）普及に向けた取組
 - ・若者の自殺未遂対応チーム事業
 - ・若年層に向けた啓発事業について
 - ・庁内あげての自殺対策への取組み

【主な質疑】

○事業の評価をしないとイケないが、そのためには数値目標が重要である。計画には自殺死亡率を数値目標に掲げているが、自殺者数は少ないため、一人違うだけで死亡率が変わることもあり、気を付けてほしい。人口動態統計の自殺者数は警察庁統計の数より多い。府は警察庁統計を使っているが、人口動態統計の方が率で変化を見るには適していると思う。事業ごとにターゲットとする年齢・性別の数値で目標の達成度を評価してもらおう方がいいと思う。

⇒指標については、いただいた意見を参考に今後検討させていただきたい。

○こころの電話相談とこころの健康相談統一ダイヤルの違いは。

⇒こころの電話相談は府独自で実施、こころの健康相談統一ダイヤルは全国統一で実施している電話相談である。どちらも平日、日中に府こころの健康総合センターで実施。なおこころの健康相談統一ダイヤルについては、夜間の時間帯は民間団体が対応している。

○こころの健康相談統一ダイヤルについて、他府県では独自で 24 時間対応をしているところもある。大阪府は 3 月及び 9 月のみ 24 時間対応であるが、今後夜間など時間帯の拡充について検討されているのか。また、支援者支援や支援者の資質向上について民間団体との連携について検討していることがあれば教えてほしい。

⇒こころの健康相談統一ダイヤルは、今のところ 9 月と 3 月のみ 24 時間体制としている。

支援者支援については、自殺対策人材養成研修の中で取り入れている。

支援者の資質向上については、若年層向け電話相談研修、未遂者支援研修などを実施。市町村の他、医療機関、相談支援事業者等の関係機関が対象。

○学生への啓蒙は重要であるが、誰が啓蒙するのか、スクールカウンセラーか、教員か、地域など第 3 機関が協力して実施するのか。スクールカウンセラーが充実していれば任せられると思うが人手不足と聞いている。

⇒SOS 出し方教育の普及に向けた取組において、こころの健康総合センターがすべての学校に実施することはできないため、保健所、市町村、教員を対象に講師養成を実施、受講した教員等が学校で実施してもらえたらと思っている。受講したスクールカウンセラーが全学校で実施するという市町村もある。また、校長先生の意向ですべての先生が受講する学校もある。今のところ講師を増やすことをめざし、スクールカウンセラー、教職員、地域の関係者が広く講師になり広がればと思っている、

○保健所と医師会、大学と一緒にできないか模索しているが、市町村や学校とのコミュニケーションが難しい。熱心な校長先生がいれば実施できるかもしれないが、そうではなく、府全体で取り組む必要があることを全市町村に周知してもらえたらと思う。

○若年層への対策は重要で、3 月と 9 月は国の方針もあり、集中的に広報するなど取り組んでいるが、月別の自殺者数を見ると、5 月 6 月も多いため、その時期にキャンペーンの実施など検討はされないのか。

⇒5月はゴールデンウィークがあり、新年度が始まってすぐであるため注意すべき時期であると認識している。SNS相談大阪府こころのほっとラインでは、3月、9月に加え5月も相談日を増やして対策をしているところ。その他については今後検討していきたい。

(4) 新型コロナウイルス感染症に関連した取組みについて【資料4-1~3】

- ・新型コロナウイルスのフリーダイヤル実施状況
- ・大阪府こころのほっとライン新型コロナ専用実施状況
- ・新型コロナウイルス感染症に係る生活支援事業

【全体を通しての意見】

○保健所と相談して、ゲートキーパーを増やさないといけないとのことから、まず、地域の開業医をターゲットとして医師会に働きかけている。学校医の先生もいることから学校で自殺対策に関する講演会ができないか保健所に調整してもらったが、まだ入り込めていない。市町村・府・保健所、近隣の団体で子どもを守っていく取組みができればと思う。スクールカウンセラーの配置はどうか、予算はどんどん増えていくのか。やっぱり地域がやらないといけないのか。

⇒スクールカウンセラーについては、全府立高校、中学校区に配置されており、小学校での活動時間の拡充を図っているところと教育庁より確認している。

○自殺念慮を抱えた人への対応というテーマで、大阪市を中心に教職員向け研修会の講師依頼がある。市教育委員会主催であったり学校単位であったり様々だが、そこから波及して、その他の市からも講演の依頼がきている。学校単位で熱心な先生が引っ張って、広がっていく感じであり、必要とされるところに行けばいいと思っていたが、何年度までに何人の人が受講するなど目標を立て、計画的に進めていく必要もあるのではと思った。

○学校への啓発については、単発なのか、組織的に方針を持って戦略的に実施していくのか注目していく必要がある。また、学校とはどこを指しているか、高専や定時制高校は普通科より自殺死亡率が高く、予備校でも取り組んでいるところもある。組む相手は誰か、どう貢献していくか整理する必要がある。